

2023 年度年次報告書

文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創

2023 年度採択研究代表者

久保田 荘

早稲田大学 政治経済学術院

准教授(テニュアトラック)

フィールド実験で解き明かす夜の睡眠と昼間の社会

研究成果の概要

本研究では、人々の時間の使い方、特に睡眠について、それが社会全体に及ぼす影響を探るプロジェクトである。本年度は、初年では、学生を対象としたパイロット実験を行った。前半3週間から行動記録を行い、その後半分の処置軍に朝7時までに起きたら報酬を与え、それがない対照群との差を計測した。ただ、今回は実験結果を見ることよりも、実際に運営できるかを試した。まず、市販スマートウォッチによる睡眠(夜の行動)と心拍数(昼の行動)を記録した。追加して、Accelstars 医療用時計型デバイスと、Withings スリープマットによる正確な睡眠測定、Jins MEME のメガネ型デバイスと「のう KNOW」アプリによる集中力測定、「あすけん」アプリの栄養記録、「マネーフォワード ME」家計簿アプリによる購買行動記録、さらに自作ウェブアプリによる質問票や日中行動記録、さらに株取引ゲームを使った金融行動測定を行った。結果として、多くの測定を行っても被験者負担はそんなに大きくはないが、記録予定を忘れたりデバイスがうまく作動しない、さらに使い方がそもそも分からない、などの問い合わせに対応することが課題となった。これらの結果は、このようなデジタルデータ利用について大東文化大学経済シンポジウムで招待講演を行った。また、医療分野で体内時計の研究会である、広島大学時間健康科学プロジェクト研究センターにて、より詳細に発表した。

また、関連研究として行ってきた、女性の仕事と家事の時間配分についての文化的影響を、アメリカとトルコで比較した"Culture, Gender, and Structural Transformation: A Case of Turkey"は、専門誌に改訂中である。他に、コロナ禍における働き方や家庭内時間を含めて、日本の新型コロナ関係の経済研究をまとめ、中国と台湾の専門家とともに"Economic impacts of COVID in Asia"を執筆した。Handbook on the Economics of COVID-19として出版予定である。